

東京外語会有志による海外支部歴訪の旅
第 17 回ヤンゴン支部訪問
～癒しと安らぎの国 ミャンマーを訪ねる～
(2017.2.6 ～ 2.11、OP 12)

< 1 >

東京外国語大学が主要な海外協定校に設置しつつあるグローバルジャパンオフィス (GJO) の第一号がミャンマーのヤンゴン大学に設置され、それに伴い 16 年 6 月に外語会ヤンゴン支部が新設された。今回の旅では、最近の民主化の動きを受けて変化しつつあるミャンマーを、最適な季節の 2 月に訪問し、新設のヤンゴン支部と交流した。

参加者 16 名。外語会支部委員長として今回の訪問の準備中に急逝された鈴木惟高氏の夫人も加わった。

真冬の成田からヤンゴンへ ～気温 30 度越えに汗ばむ～

2月6日(月)

午前 9 時に成田空港集合。結団式を行った後、ほぼ快晴の成田空港を飛び立ち、ヤンゴン国際空港に現地時間 16:05 (日本との時差は 2 時間 30 分)に着陸した。

現地ガイドのヤンさんは印葡緬の混血の 20 代のジャニーズ系美男子。ヤンゴンの外国語大学の日本語コース出身。なかなか勉強家で、過去・現在のミャンマーの諸現象、諸事情をデータを交え大いに語ってくれた。

市の中心に位置するスーレー・シャングリラ・ホテル (SULE SHANGRILA YANGON) の部屋にいったん荷物を置き、レストラン・パドーマー (PA DONMA) へ夕食に。ミャンマー料理だったが、観光客向けに味付けを薄く、油を少なくしてあるという。

シュエダゴンパゴダのライトアップを車窓に見ながらホテルに帰る。バスがほとんど日本の中古車で、車体に「何々旅館」と大書してあるのには驚いた。市内の車の渋滞は想像以上で信号もほとんどなく、強引に割り込まないと前に進めない状況だ。



ガイドのヤンさん



ヤンゴン市内は大渋滞

バゴー ～ 裸足で僧院見学、夕刻に支部との盛大な交歓会 ～ 2月7日(火)

朝 8 時ヤンゴンの北東にあるバゴーへバスで出発。チャッカワイン僧院で裸足になり、僧侶たちの食事前の集会、僧院内の托鉢、食事の様子を見物。

午後は、1000 年以上前のシュエターリャン（寝釈迦仏）、次に郊外のチャイプーンパゴダを見物。静かな木立の中、東西南北 4 面に高さ 30 メートルの座像がある。



食事前の僧侶たち



寝釈迦仏



4面に座像

夕方 6 時半から、ヤンゴン市内のレストラン・シャン・ヨーヤ (SHAN YOE YAR) に於いてヤンゴン支部との交歓会。日本からの訪問者 16 名、ヤンゴン支部から 9 名、留学生 11 名、特別参加 2 名、合計 38 名が参加し、会場は人で溢れんばかり。会場の中央には綺麗なヤンゴン支部の旗が飾られ、我々訪問団は大感激。今日のおもてなしは島岡みぐさヤンゴン支部長のご尽力の賜物である。プレゼント交換で外語会に漆塗りの楯 (プレート) と各人に小箱をいただいた。



交歓会の様子



島岡支部長から記念の楯をいただく石原団長

ヤンゴン支部は、昨年 6 月に設立され、海外 53 番目の支部誕生となったが、このことを記念して、新支部の皆さんと交歓交流を図り、お互いの情報を交換するとともに、更に、敬虔な仏教国であるミャンマーの歴史に触れるのも訪問の目的であった。

交換会は副支部長土屋宏樹氏 (D1991) の司会で進行し、支部長挨拶、訪問団団長 (石原) 挨拶に続いて母校立石学長、長谷川理事長からのメッセージが披露された。本来は、

ヤンゴン大学に設けられた母校の GJO の状況を見学できればと考えていたが、国情によりそれが叶わなかったのは残念だった。しかし、現地で勤務されている今井已知子先生はじめ出席された大勢の留学生、それも、若い女性ばかり 11 人の留学生から色々学内の事情も聞くことが出来、会場は華やかな雰囲気につつまれていた。



高橋ゆりさん（シドニーから） ミャンマー料理をどうぞ 挨拶するヤンゴン大（GJO）の今井先生

また、この交歓会には特別参加として、シドニー外語会会長の高橋ゆりさん（MP 平 2 ビル語）も出席されていた。高橋会長と島岡会長とは旧知の間であり所用のついでとのことながら、遠路を飛来してこの交歓会に参加された友情に拍手を送る思いであった。

今夜のシャン料理は、ヤンゴン支部の温かい友情に包まれ、今回の旅行の中で抜群の美味しさだった。賑やかな交歓会は、時間が過ぎるのも忘れるかのようであったが、午後 9 時には名残を惜しみつつお開きとなった。



2017年2月7日（日） ヤンゴン支部との交歓会 （シャン ヨーヤ レストラン）